

41
50

一般社団法人 高岡アルミニウム懇話会

Takaoka Aluminium Association
50th Anniversary 1964 - 2014

創立50周年記念誌



一般社団法人 高岡アルミニウム懇話会

Takaoka Aluminium Association
50th Anniversary 1964-2014

創立50周年記念誌



一般社団法人 高岡アルミニウム懇話会

創立50周年記念誌

発刊にあたって

一般社団法人高岡アルミニウム懇話会

会長 島 勲

高岡アルミニウム懇話会は、昭和39年(1964年)2月8日に誕生して以来、本年で創立50年を迎えることができました。

ここで、50周年の大きな節目を迎えることができましたのも、会員の皆様、諸先輩方、官庁はじめ関係機関からのご支援・ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

高岡アルミニウム懇話会は 昭和39年2月8日、三協アルミニウム工業(株)の創業者であり、初代会長であります竹平政太郎氏が、アルミの産地化を提唱され、地元アルミ関連業者に呼びかけ、14社結集のもと創立されました。

これを機会として、この年より地元高岡のアルミ産業を全国にPRするため、第一回目の「富山県軽金属見本市」を、大阪市の近畿富山会館で開催しました。以来、呼び名を変えながら回を重ね、30年に渡り全国各地において「アルミ産地・高岡」の名を浸透させてきたのであります。また、PRの一環として、国、県、市などが主催するイベントにも数多く出展してまいりました。

昭和48年には金沢市で開催されました「日本海博覧会」、55年の「高岡アルミ50年祭」を始め多数のイベントを開催、協賛してまいりました。

この間、地元高岡を中心として数多くのアルミ関連企業が誕生し、平成6年には任意団体から「社団法人」へと組織と事業の強化を図りました。創立50周年を迎える現在では77社の会員企業で構成するまでになりました。

更に、富山県アルミ業界の技術レベルの向上、人材育成、新規技術の修得のために数々の事業を行ってまいりました。昭和42年には、富山大学との提携によるアルミ技術の基礎講座がはじまり、46年には「第1回軽金属夏季講座」が開始され今年度で43回を数えております。このような取り組みは全国でも類を見ないものであり、富山県アルミ産業界の基礎的な技術の底上げに大きく寄与しているものと確信しております。

そして社団法人化を契機に ポリテクセンター富山のご支援による「人材高度化支援事業」「地域高度技能活用推進事業」「人材確保推進事業」では、人材育成、技術力向上等会員企業の支援に努めてまいりました。

特に、「人材高度化支援事業」で培った人材育成事業は、時代のニーズにマッチした能力開発セミナーとして現在まで進めております。



近年は経済産業省の支援で 地域のものづくり資源の強みを生かした企業づくりとして「地域企業立地促進等補助事業」「地域資源活用販路開拓等支援事業」に取り組み、会員中小企業が自立を目指す人づくりや商品づくりの人材養成や技術開発事業に成果を上げております。

その成果物は、創立50周年を記念して、高岡市に寄贈し、新高岡ステーションビルに設置させていただきます。

そしてまた、アルミの新用途、新技術の講演会として平成7年よりアルミニウム建築構造協議会の協力による「アルミニウム建築構造講演会」平成8年には会員の新技術の紹介の場として「アルミシンポジウム」をスタート致しましたが、平成22年からはアルミのさらなる用途拡大をめざす、「アルミ用途開発講演会」に変革し、富山県全域のアルミ産業に係る企業、大学、研究機関、行政機関が連携し、地元産業界の活性化につなげています。

創立50周年を迎え、アルミ産業を取り巻く環境変化はスピードを増しております。先人が築いてこられた実績をもとにアルミの新しい用途開発、新技術、新ビジネスに挑戦し、日本のみならず世界へと発展するアルミ産業となることを狙いとし、平成25年11月1日より名称を一般社団法人富山県アルミ産業協会に変更しました。

名実ともに富山県のアルミ産業界を代表する団体として産学官の連携を更に深め、会員企業の持続的な発展、業界の進展、地域経済の発展に努力したいと考えております。

今般、創立50周年記念事業の一環として当懇話会のこれまでの歩みと記念事業の実施内容を網羅した記念誌を発行することになりました。

発刊にあたり、県・市はじめ関係各位に多大なご支援、ご協力を戴き、深甚より感謝申し上げますとともに今後とも引き続き絶大なるご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます、ご挨拶といたします。



一般社団法人高岡アルミニウム懇話会 創立50周年記念誌

目次

発刊にあたって	一般社団法人高岡アルミニウム懇話会 会長 島 勲	……2	
祝 辞	富山県知事 石井 隆一	……6	
	高岡市長 高橋 正樹	……7	
	高岡商工会議所 会頭 川村 人志	……8	
	一般社団法人富山県機電工業会 会長 野村 正也	……9	
	富山県プラスチック工業会 会長 笠井 千秋	……10	
	富山県工業技術センター 所長 榎本 祐嗣	……11	
創立50周年記念式典・祝賀会		…… 12	
顧問・役員紹介		…… 20	
エッセイ 「おめでとう。そして、ありがとう」	高岡アルミニウム懇話会 第2代会長 戸田 清一	…… 22	
	「創立五十周年によせて」		
	高岡アルミニウム懇話会 第3代会長 荒井 久夫	…… 24	
「100年を迎えるためのスタートに！」	高岡アルミニウム懇話会 第4代会長 竹平 栄太郎	…… 26	
	一般社団法人高岡アルミニウム懇話会創立50周年記念座談会 「新たな50年に向け、組織も全県化してスタート アルミの用途開発は進み自動車、飛行機、宇宙へ」	…… 28	

会員企業紹介	33
50年のあゆみ	109
高岡のアルミの歴史	163
定款	175
協賛広告	181
50周年記念事業策定委員会（平成24年度）	206
50周年記念事業実行委員会（平成25年度）	207

50周年を祝して

富山県知事 石井 隆一



このたび、一般社団法人高岡アルミニウム懇話会が創立50周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

貴会には、富山県のアルミニウム総合産地化構想を実現するため、昭和39年に創立されて以来、半世紀の永きにわたり、本県のアルミニウム産業の集積と発展に多大なご貢献をいただいています。

特に、近年、アルミニウムは、自動車部品、鉄道車両、産業機械などへの需要が拡大しており、幅広いニーズに対応した新商品・新技術の開発が一層求められています。

こうしたなか、貴会には、軽金属材料の基礎的知識と応用技術の習得を目的とした講座や、アルミニウムの新たな用途展開を探る講演会などを開催され、会員企業の技術力向上や新商品開発、技術者の育成に向け積極的に取り組まれているほか、安全衛生や加工組立技術の基礎に関する研修を実施されるなど、新入社員教育にも力を注いでおられます。また、会員相互の共同研究や国の大型研究プロジェクトなど、産学官連携による新技術の開発に積極的に取り組み、本県アルミニウム産業の基盤強化にご尽力いただいています。

ここに、島会長をはじめ歴代役員並びに会員の皆様方のたゆまぬご尽力に、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、ものづくり産業を取り巻く環境は、アジア諸国を中心とした新興国の急速な技術力の向上によるグローバル競争の激化などにより、大変厳しい状況にあります。こうしたなか、本県のものづくり企業が発展していくためには、高いものづくり技術や日本海側屈指の産業集積といった基盤を活かし、魅力ある新商品や競争力に優れた新技術の開発など、絶えざるイノベーションと、これを支える人材の育成に取り組んでいくことが重要です。

このため、県では、「新・元気とやま創造計画」に基づき、県内企業の新たな成長分野への挑戦支援をはじめ、ものづくり研究開発センターを拠点としたナノテクノロジーに係る研究開発の推進、県内企業の新商品・新技術の開発支援、高度なものづくり人材の育成など、競争力のある力強い産業の振興に積極的に取り組んでいるところです。

貴会におかれましては、このたびの創立50周年を機に「一般社団法人富山県アルミ産業協会」として新たなスタートを切られますが、今後、さらに会員相互の結束を固められ、富山県の基幹産業であるアルミ業界を代表する会として、本県ものづくり産業の発展に一層のご支援、ご尽力をいただきますよう心からお願い申し上げます。

終わりに、貴会の限りないご発展と、島会長はじめ会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍、ご多幸をお祈り申し上げます。

祝辞

高岡市長 高橋 正樹



高岡アルミニウム懇話会創立50周年という記念すべき年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

貴懇話会は、高岡市名誉市民、故竹平政太郎様の呼びかけにより、高岡アルミ総合産地化構想の実現に向けて昭和39年に創立されて以来、半世紀の長きにわたり、アルミ業界の振興を目指して、月例会、講演会、優良従業員表彰式の開催をはじめ、アルミ情報誌の発行、能力開発セミナー、軽金属教育夏季講座の開催、各種イベントの出席・協力など、積極的に事業を展開され、アルミ産業はもとより、地域社会の発展に大きく貢献してこられました。

貴懇話会のご活躍により、今やアルミ産業は基幹産業として本県経済の一翼を担っており、高岡は日本有数のアルミ産業の産地へと飛躍を遂げ、ものづくりのまちとしての地歩を固めております。

また、50年間の輝かしい実績と信用のもと、県内のリーディング産業としてアルミ業界のより一層の飛躍を目指して、県全域の組織へと活動の場を拡げられ、富山県アルミ産業協会として新たな一歩を踏み出されますことは、誠に意義深くご同慶に存ずる次第でございます。

今日、このように地域・県内をリードする経済団体として発展されたのは、ひとえに、地元におけるアルミ産業の総合的振興をはかり、地域社会の発展に尽くすという創立時の故竹平政太郎様の高い理念を継承された歴代会長・役員の方々、並びに会員の皆様方の長年にわたるご尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第でございます。

さて、高岡市は開町400年を経た高岡の新たな100年の道筋と5年間の重点的な取り組みとして、高岡新世紀創造プロジェクトを掲げ、「まちを磨き、魅力をつなぎ、未来を創る」をキーワードに、その推進に全力を挙げております。平成26年度末の北陸新幹線開業が秒読み段階に入中、新たな高岡の都市基盤が次々と姿を現し始め、市民の機運や周辺圏域から本市に寄せられる期待はますます高まっております。これらを追い風として、「歴史と文化」、そして「ものづくり」が一体となって発展を遂げてきた「高岡ならではの」まちの魅力を活かし、文化創造都市の構築を進めてまいります。地域の活力を高め、住みよい、満足度の高いまちをつくるため、各種事業の推進に際しても貴懇話会をはじめ市民の皆様方のご支援・ご協力を今後とも賜りますようお願い申し上げます。

終わりにあたり、高岡アルミニウム懇話会の会員の皆様の更なるご健勝とご多幸をお祈りいたしますとともに、今後益々のご発展を心よりお祈りいたしまして、私のお祝いのご挨拶といたします。

祝辞

高岡商工会議所 会頭 川村 人志



このたび、高岡アルミニウム懇話会が創立50周年の佳節を迎えられましたことをお祝い申し上げますとともに、記念誌の発刊にあたり心からお慶びを申し上げます。

もとより高岡は、開町以来400有余年という長い歴史にわたって綿々と生まれ受け継がれてきた鑄物の里であり、銅器産業として栄えた「ものづくりの心」が今も息づいている街があります。こうした伝統に裏打ちされた技術と心は、この地にアルミ日用品やアルミサッシ製造を端緒とする新たな産業を芽吹かせ、わが国の経済成長とともに目覚しい発展を遂げてまいりました。今日アルミ産業は、アルミ建材を中心に地場産業としての域を超え、日本の一大産業として開花し今に至っていることは皆様ご承知のとおりでございます。

貴会50年の歴史を遡りますと、昭和39年、当時全国15地域の一つに数えられた新産業都市指定とまさに機を同じくして発足。まだ産声を上げたばかりと言っても過言ではない黎明期にもかかわらず、すでにアルミの将来をしっかりと見据え、総合的な発展を目指した活動を始められたのであります。こうした先駆的な取り組みは、地域社会への貢献という高邁な理念により「アルミ総合産地化構想」を掲げた竹平政太郎氏のもとに集う有志の方々によって立ち上げられ、協調と発展、互いの切磋琢磨、そして夢を語る場として、爾来その名のごとく「懇話会」として脈々とその歩みを刻まれてきたものであります。

大正期、世界的科学者であった高峰讓吉博士が現代のアルミ産業発展を予見し、富山県とりわけ生誕の地・高岡こそがアルミ産業育成にふさわしい土地であると提唱されており、その言葉をたどるように歴史は、昭和初期に高岡でアルミ鑄物加工業が誕生。戦前にはアルミ板プレス加工技術が。また戦後復興の時代には、アルミ日用品を中心とした生活物資供給の地として。そして高度経済成長という大きな波に乗り、名実ともに日本一の「アルミ王国」といわれる姿にまで発展を遂げてきたのでございます。

高岡はいま、2015年春の北陸新幹線開業を指呼にして、新たな時代の幕開けに大きな期待を膨らませております。貴会におかれましてもこの50年の節目を機に、11月には「富山県アルミ産業協会」として全県的な活動に歩みを進められ新しくスタートされるところであります。今後アルミはもとよりマグネシウム、また非建材分野など次世代の金属素材や先端加工技術構築への取り組みなど、貴会におけるその役割と重要性はますます大きくなるものと思います。これまで以上に、地域産業振興に一層ご尽力を賜りますようお願いするものでございます。

結びにあたり、地域産業発展へのこれまでのご尽力に改めて敬意を表し、貴会の限りないご発展と会員の皆様方のますますのご健勝ご多幸を祈念申し上げましてお祝いの言葉といたします。

一般社団法人高岡アルミニウム懇話会 創立50周年に寄せて

一般社団法人富山県機電工業会 会長 野村 正也



一般社団法人高岡アルミニウム懇話会創立50周年おめでとうございます。

今日に至るまでの長きにわたり、アルミ産業界発展のため、また、工業立県富山の発展にご尽力され、心から敬意を表します。

先日、あらためて貴懇話会の歴史を読ませて頂きました。創立者の故竹平政太郎氏や、故荒井三郎氏のアルミにかかる思い、それを実行に移す判断力と実行力には頭の下がる思いをした次第です。

その中で述べられていた言葉に、「アルミは他の金属との共用を考えていくべき」とありました。

私が今更申し上げるまでもなく、その思いは現実となり、発展のスピードには、目を見張るものがございます。家庭用品から重工業、宇宙航空産業など、あらゆる産業分野で利用され、今や無くてはならない金属の一つとしてその地位を確立しています。

そして、その柔軟な用途開発が業界間での切磋琢磨につながり、業界の発展に結びついていることも注目すべきことと思いました。

一方、アルミの製造工程は、多量の電力を必要とすることでも知られており、富山でも一時ポーキサイトからの精錬がなされていました。今日ではこれに代わり、新地金からの製品化と、スクラップからの再生地金が使われています。ここが重要なところで、使用電力量が減るばかりでなく、使い回しの出来る金属として大変重宝されています。

ちょうど1990年代後半から環境問題が叫ばれ、行政と民間が一体となり、空き缶などの回収に動き出したのを覚えています。

その優等生にアルミ缶が含まれます。

つまり、アルミは産業界を発展させるだけでなく、環境に対しても優しい金属であり、今日の環境対策を牽引していると思います。

私どもが普段何気なく使用しているアルミですが、その優れた用途は、貴懇話会会員皆様方の努力の賜物と深く感謝しています。

最後になりましたが、一般社団法人高岡アルミニウム懇話会が、島会長のもと、益々発展されますことを祈念し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

祝辞

富山県プラスチック工業会 会長 笠井 千秋



このたび、一般社団法人高岡アルミニウム懇話会が創立50周年を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。

貴団体は昭和39年2月に設立されて以来、地元におけるアルミ産業の総合的振興により富山県をアルミ産業の総合産地に育てるという創立の目的のもと、歴代の会長および役員の皆様をはじめ、会員企業の皆様の絶え間ないご努力により、活発な活動を実行され、富山県のリーディング産業を代表する団体として、地域社会に大きな役割を果たしてこられたことに対して心より敬意を表します。

富山県のアルミニウム産業の歴史を辿れば、高岡銅器の歴史と技術を基盤としており、そこに近代において、高岡市に生まれた偉大な科学者である高峰譲吉博士の考えによる、豊富な水量の河川を利用して発電を行うことによる「大アルミ産地化構想」の計画があり、それが具体的な産業集積に繋がったと伝えられております。そして、日本の高度経済成長期を経るとともに、その後の幾多の試練を乗り越え、大きく発展し現在に至っております。

この発展には、貴団体が果たした役割は大きく、技能・技術のレベルアップを始め経営にかかわる啓蒙活動や会員間の交流・情報交換、そして更なるアルミ産業の活性化と雇用の安定を図るため、官・産・学の連携強化に尽力され、現在は更なる拡大を目指されると聞き及んでおります。

私共が属する富山県のプラスチック産業についても、高峰博士がベークライト製造を日本に初めて導入したことを嚆矢としており、そもそもの素材の物性における共通項も多く、アルミ産業との繋がりは深いものがあります。そして、富山県プラスチック工業会の50年の歴史の中では、同じ業界団体として、先駆者たる貴団体の充実した事業内容について、常に学ぶべき模範として位置づけて参りました。

今、日本経済は、失われた20年からの脱却を目指した大胆な政策転換の中にありますが、最も重要なのはグローバル経済の中での日本産業の競争力強化であります。

日本のアルミ産業は基盤とする技術水準では世界の中で群を抜いており、応用加工技術を駆使することで、建築のみならず輸送用機器そしてIT機器などにおいて新たな市場を更に拡大できるものと確信しております。

貴会におかれましては、今まで以上に業界活動の充実にご尽力され、富山県のみならず日本全体の産業振興に向けて、更なる発展を目指されることに加え、会員の皆様の益々のご活躍と、ご健勝を祈念して、お祝いの言葉といたします。

高岡アルミニウム懇話会50周年に寄せて

富山県工業技術センター 所長 榎本 祐嗣



高岡アルミニウム懇話会が、創立50周年となる記念すべき年を迎えられましたこと心からお祝いを申し上げます。懇話会が創立された1964年は、アジアで初めてとなる東京オリンピックが開催された年、そして50周年を迎えた今年には再び東京オリンピック7年後の開催が決まった年、何かの因縁を感じたくになります。1964年のオリンピックを契機にわが国の経済は大きく成長し、これにともなってアルミ産業も右肩上がりに伸びました。(一社)日本アルミニウム協会の資料によりますと1974年から1994年までの20年間、わが国のアルミ需要は2.5倍に伸びましたが、その後はバブルの崩壊、そして失われた20年といわれる経済の停滞で需要が伸び悩み、産業界にとって苦難続きであったと思います。しかし、そのような激動のなかにあっても、今日に至る礎を築いてこられた先輩諸氏ならびに関係各位のご尽力に敬意を表する次第です。この礎は、きっと2020年東京オリンピックの成功とアルミ産業の成長への引き金になるでしょう。

富山でのアルミ産業の源流は高峰譲吉博士まで遡ります。高岡市の高峰公園にある博士の顕彰碑には湯川秀樹博士の撰文が記されています。お二人がこの地に結びついた因縁を筆者は知りませんが、高峰博士は、撰文にあるように「偉大なる発明発見によって人類に不朽の恩沢をあたえた」、いわば近代化学工業を拓いた‘技術’の偉人であり、湯川博士は、原子の核力を媒介する中間子を理論的に予言して素粒子物理学を拓いた‘科学’の偉人といえるでしょう。

「科学」と「技術」、慣れ親しまれたこの2つ用語が日本学術会議で議論されたことがありました。議論の発端は、近代科学・技術の発展の一方で産み出された環境問題の解決と両立できる「持続可能な社会」の実現を目指す学術を模索することであり、「新しい学術の体系」としてまとめられています。そこでは、科学と技術を同格として扱い、科学→認識科学、技術→設計科学に重心移動した議論が展開されています。設計科学は「あるべきものの探求」を行うもので、「持続可能な社会」の構築に向かう道筋を拓く学術です。いささか講釈めいてきましたが、アルミニウムは人工物の主要な構成物質であり、資源は豊かでリサイクルの優等生です。「持続可能な社会」にふさわしい“あるべき”人工物を目指して、これからも設計科学し続ける進化型アルミ産業であることが期待されます。

平成19年に策定された「新富山科学技術プラン」のなかでは「世界の試作品センター」を富山県に形成してゆく長期構想が謳われています。そして平成23年度「富山県ものづくり研究開発センター」として、その構想は一步を踏み出しました。このセンターがアルミ産業にとっても‘産学官金’四人五脚の連携の場となって「循環型社会」へ‘路を拓く’お役に立てれば幸いに存じます。

最後になりましたが、高岡アルミニウム懇話会を基盤に、富山のアルミニウム産業の益々のご発展を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。